

R3年8月

治療 開始日	治療 終了日	期間	所定疾患 傷病名	処置等の内容
8月1日	8月5日	5日	尿路感染症	体温38.5℃ SPO2 97% 検尿 亜硝酸 (+) 尿蛋白 (+) 白血球 (-) Dr診察にて尿路感染症の診断 抗生剤 5日間投与 クラスロマイシン (200) 2錠2×1 解熱剤アセアミノフェン0.4g頓用 経過観察へ。
8月11日	8月17日	7日	急性肺炎	8/8よりKT37℃台の微熱あり 検尿 亜硝酸 (2+) ケトン体(+)白血球 (-) Dr診察聴診 右呼吸音聴取弱し 胸部X-P検査施行 肺炎 (軽度) の診断 抗生剤処方 (ペニシリン系抗菌薬) オークメンチン (125) 3錠3×1 1T 8/12 KT38.2℃上昇 Dr診察内服変更へ (マクロライド系) クラスロマイシン (200) 2錠2×1 継続して13日間投与する。 Spo2 93% O2 0.5Lマスク開始 解熱剤アセアミノフェン0.4g頓用 徐々に解熱、酸素化も安定する 経過観察へ。

R3年9月

治療開始日	治療終了日	期間	所定疾患 傷病名	処置等の内容
9月1日	9月5日	5日	肺炎	KT38.2℃発熱 解熱剤アセトアミノフェン0.4頓用投与するもKT37℃台の微熱持続 Dr聴診にて肺雑軽度(+)の為胸部レントゲン検査施行 結果:肺炎の診断 抗生剤(ペニシリン系)オクゲメンチン(125)6T3×1 5日間投与 経過観察へ
9月22日	9月26日	5日	肺炎	Kt38.2℃発熱 Dr聴診にて肺炎の診断 抗生剤5日間投与 ノルフロキサシ(100)3T 3×1 解熱剤アセトアミノフェン0.4頓用 経過観察へ
9月1日	9月5日	5日	尿路感染症	8/31 22時KT37.2℃ 9/1 KT37.1℃ Dr聴診にて呼吸音・心音安定。 検尿 亜硝酸(2+)、尿蛋白(±) 尿潜血(-)、白血球(-) 尿路感染症との診断。 抗生剤5日間投与 ノルフロキサシ(100)3錠 3×1 経過観察へ
9月14日	9月17日	4日	尿路感染症	胸部不快、嘔吐あり KT37.7℃ Dr聴診にて呼吸音・心音安定 検尿 亜硝酸(+)尿蛋白(+) 白血球(-)尿潜血(-)にて 尿路感染症の診断 抗生剤4日間投与 ノルフロキサシ(100)3T/3×1 経過観察へ
9月10日	9月15日	6日	尿路感染症	KT38.2℃ Dr聴診にて呼吸音・心音安定 検尿 亜硝酸(+)尿蛋白(-) 白血球(+)尿潜血(-) 尿路感染症の診断 抗生剤6日間投与 ノルフロキサシ(100)3T/3×1 6日間 解熱剤アセトアミノフェン0.4g頓用 経過観察へ
9月16日	9月18日	3日	尿路感染症	KT39.3℃ 検尿 亜硝酸(2+)蛋白(±) 潜血(-)白血球(+)混濁尿 Dr聴診にて呼吸音・心音安定 尿路感染症の診断 抗生剤3日間投与 ノルフロキサシ(100)3T/3×1 解熱剤アセトアミノフェン0.4g頓用 経過観察へ

R3年10月

治療 開始日	治療 終了日	期間	所定疾患 傷病名	処置等の内容
10月26日	10月31日	6日	急性肺炎	KT37.0℃台後半発熱あり Dr聴診にて右呼吸音やや弱い為、胸部レントゲン検査施行 結果：急性肺炎の診断 抗生剤5日間投与開始 クラリスロマイシン (200) 2T 2×1 解熱剤アセトアミノフェン0.4g頓用 経過観察へ
10月1日	10月5日	5日	尿路感染症	KT37.0℃後半～39.0℃台 の発熱、下腹部痛認める。 検尿 亜硝酸 (+) 潜血 (+) Dr診察 尿路感染症の診断 抗生剤投与5日間 ノルフロキサシン(100)3T 3×1 解熱剤アセトアミノフェン0.4g頓用 経過観察へ
10月29日	11月7日	10日	蜂窩織炎	KT38.2℃ 検尿 亜硝酸 (+) ケトン (+) 蛋白(-) 潜血 (-) 白血球 (-) Dr診察 左肘関節～手関節に熱感、腫脹、疼痛あり 蜂窩織炎の診断 (右前腕～右肘関節) 抗生剤内服投与10日間 クラリスロマイシン(200)2T/日 経過観察へ
10月12日	10月17日	6日	尿路感染症	バルーンカテーテルルート内に 血尿認める。 検尿 亜硝酸(2+) 蛋白 (2+) 潜血 (2+) 白血球 (2+) Dr診察 尿路感染症の診断 抗生剤、止血剤、鎮痙剤 6日間投与ノルフロキサシン (100) 3T トランサミン(250) 3T ブチルスコポラミン 3T 経過観察へ